

令和元年12月2日
新しい時代の特別支援教育の
在り方に関する有識者会議
資料1-②

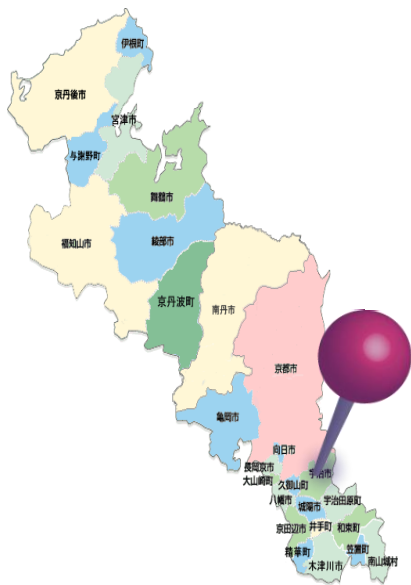
特別支援学校における 就労に関する取組について

～京都府立宇治支援学校の事例から～

京都府立宇治支援学校
校長 川高 寿賀子

1 はじめに

平成23年度開校
市街地に立地



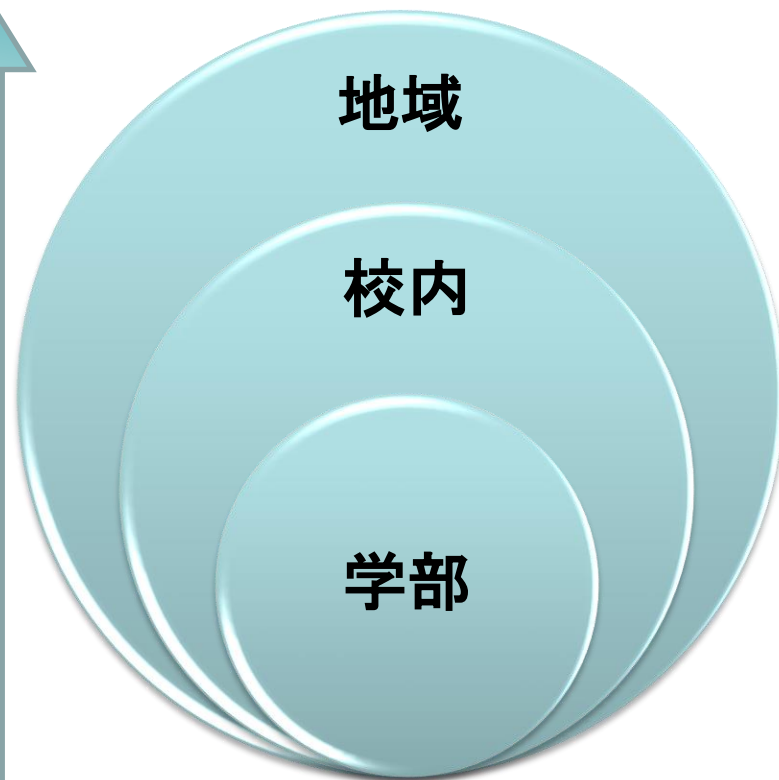
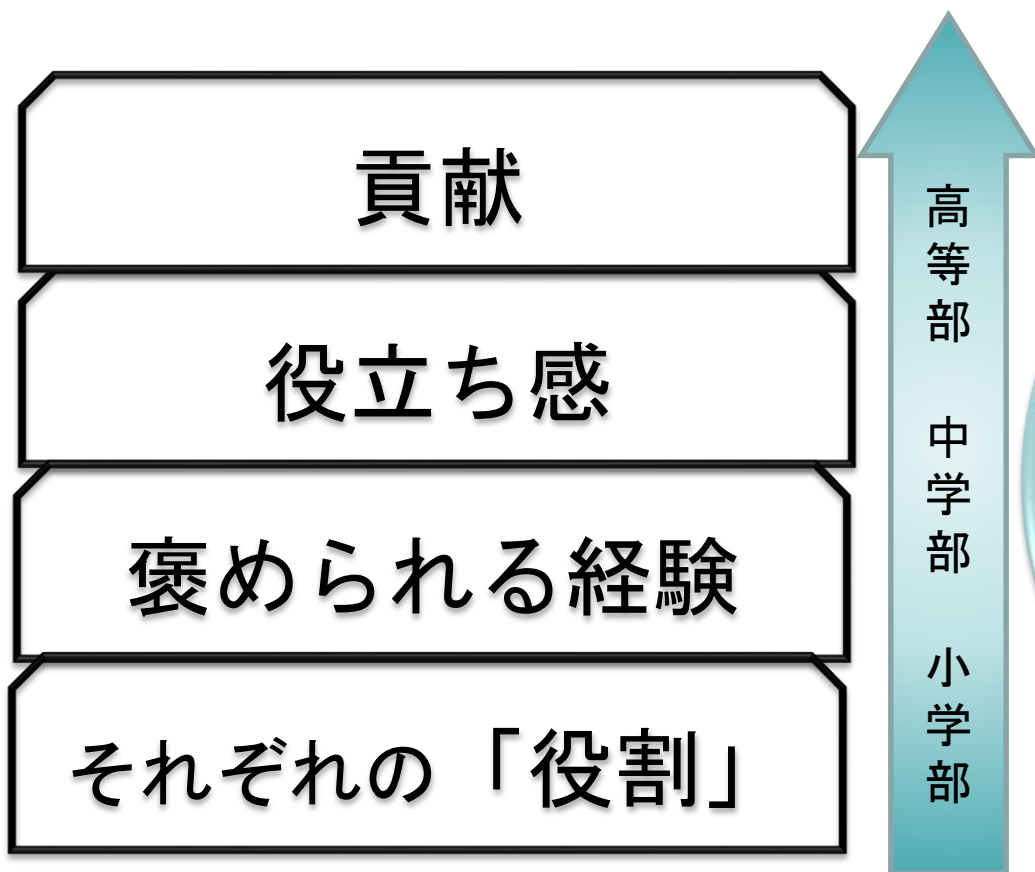
対象の障害種：
知的障害
肢体不自由

高等部（普通科）は
コース制
くらし健康コース
くらし地域コース
くらし職業コース

学 部	人 数 (R元年5月1日)
小学部	94
中学部	64
高等部	119
計	277

2 将来の姿を見据えた、 小学部から行う日常的な キャリア教育の取組

働く意欲
生活意欲へ



小学部 6 年生の役割

(集会等で。できることを、みんなのために)

司会



いすならべ



まどをあける



中学部における校内貢献活動

「UJIクリーニング」

(3年生が年間をとおして、校内全学級の台拭きを洗濯・配布・回収)



高等部における地域貢献活動

清掃



地域の方々と一緒に公園清掃



近隣の公共施設、小学校
コンビニエンスストア等を清掃



校門前で

販売

『ふれあい・心のステーション』
にて（京都府立の全特別支援学校によるデ
パートでの販売）



接客

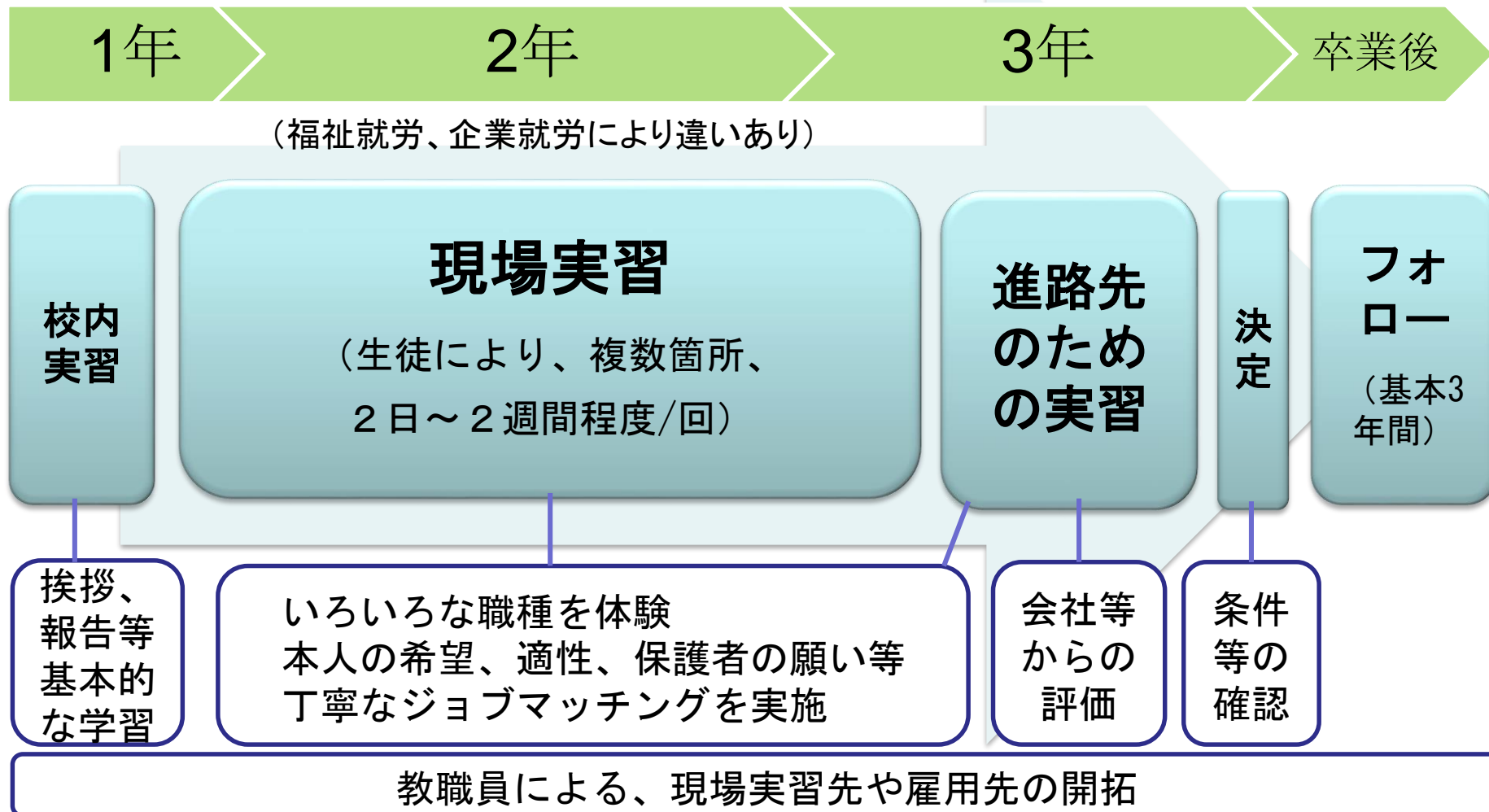


カフェ改善 プロジェクト

- ・お客様目線による改善
- ・生徒の企画をもとに、ホテルとのコラボ商品も開発



2 全ての生徒の希望進路の実現に向けた高等部の取組 ～単なる「出口」のためではなく、卒業後の生活を見通して～



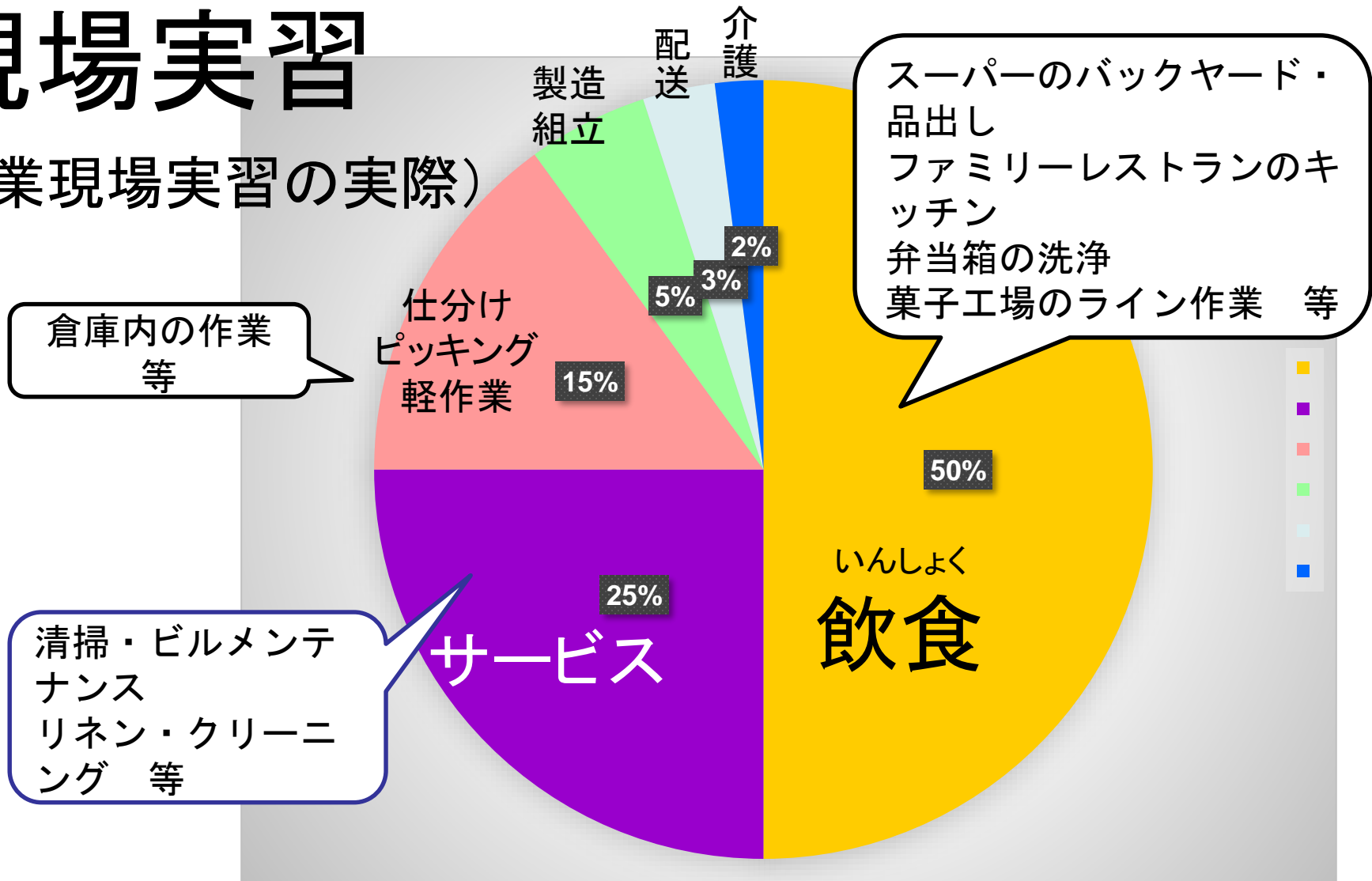
校内実習



企業から実際の仕事(箱折り等)を預かり、納品

現場実習

(企業現場実習の実際)

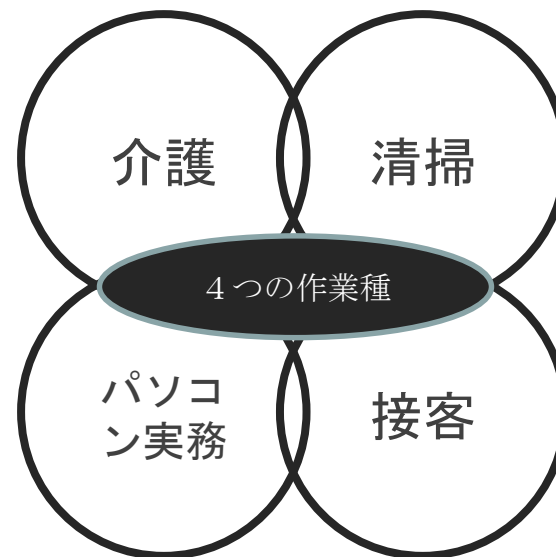






※就労先、人数等については、別紙「働きたい！」に掲載(企業就労率は30%前後で推移)

「京しごと技能検定」の取組（府立特別支援学校）



障害の程度や種類にかかわらず、就労の裾野を広げることを第一に

外部専門家の助言を受けつつ、各校で「使える」指導マニュアル等の作成

児童生徒の意欲、態度、そして勤労感の向上を大切に

検定を希望する全ての生徒に挑戦する機会を

3 今後に向けて

- ◇ 意思表示、意思決定の力の育成（ICT活用も含む）
- ◇ 実生活で確実に生かせる能力の育成

- 障害の種類や程度によらない就労の実現を
- 企業への「ジョブコーチ」の制度化と活用
- 障害の有無ではなく多様性への支援として、企業側の意識転換
- 医療的ケアの必要な生徒の受入れ先の確保



喜びは

ともにある。